

現 在携わっている三つの設計活動では、それぞれの歴史的価値と向き合い、それぞれの建築の多様な「保存と再生」を試みているのでここに紹介したい。

一つ目の活動は、東京都千代田区の日本大学理工学部「駿河台校舎の建替計画」である。隣接する敷地「日本正教会・ニコライ堂」との歴史的関係性の中から浮かび上がる教会の伽藍配置計画に起因させ、「日大理工学部新校舎の建築構成の在り方」の検討をしている。百年たるとする日大理工学部の歴史の中で駿河台地区は、かつての「学生街」から再開発による「オフィス街」へと変わろうとしており、「新しい文化都市」へと再整備をしているのだが、大学と長い歴史を共にしてきたニコライ堂との共存再生計画を進めている。

これは大学院の「デザイン」授業の中で、「レスカス、シチュールポフ、コンドル、岡田信一郎」という文明開化から関東大震災を挟んで変容させた「ニコライ堂の建築家たち」の問題意識をたどりながら、歴史地区としての「駿河台再生」を位置づけて新しいキャンパスタウンの在り方をもくろむものである。

二つ目は、「長崎市公会堂」の保存再生問題についてである。この建築は、原爆被災後に長崎が国際都市としての復興を願ったプロジェクトとして建築家・武基雄氏の設計でなされた。この建築は当時、思想信条に関係なく世界各国か

各 人 各 説

「保存と再生」 3つの多様性設計の試み

日本大学理工学部建築学科 教授

今村雅樹

Masaki Imamura



ら寄せられた浄財にて建設されたもので、現在DOCOMOMO建築のひとつでもある。

しかし老朽化やMICE構想などのおおりに受けて消滅の危機にさらされている。市民のためにつくられ、市民に愛され続けた建築（篤志家による世田谷区民会館や日比谷公会堂等と同じ）の保存利用を地元の建築・市民団体と長崎復興のシンボルの価値を訴え続けている。

三つ目は、「熊本県医師会館」の建替え計画である。晩年の坂倉準三氏設計の事務所建築であるが、新しい時代に向け医師会が県民に開かれた会館に変わろうとするため、建替えを前提のプロポーザルを行ない進めているものである。本来なら、なくなろうとする坂倉建築をそのまま保存、内装改修となるところだが、坂倉研究所で坂倉竹之助会長にお会いしたところ、準三氏晩年の仕事とのこともあり、建築以上に「家具」への思い入れがある作品とのこと。ここでは長大作氏が担当だったこともわかり、当時のオリジナル椅子（めがね椅子）を再生し、レスペクトする開かれたスペースを計画している。

これら三つの活動は、全て保存と再生がテーマであるが、それぞれの全く違う多様な建築的価値を「都市的」「建築的」「家具的」な保存と再生の切り口による試みを行なっている。最近よくある「既存立面だけ残してその後ろに超高層建築を控える」という容積率活用のための常套的保存手法とは異なるものである。